

ベストペーパー賞・ベストペーパー特別賞・若手学生奨励賞 選定記

神沼靖子（第13回情報システム学会・研究発表大会 BP賞選定委員長）

2017年12月2日（土）に第13回情報システム学会の研究発表大会が開催され、ベストペーパー賞・ベストペーパー特別賞・若手学生奨励賞の3賞が選定された。以下は選定に関する報告である。

【おめでとう！！ 受賞者のみなさま】

・ ベストペーパー賞

西野嘉之（ユーレット株式会社、産業能率大学）：DB設計を行わないシステム開発

・ ベストペーパー特別賞

中山義人（東京大学大学院）、森雅広（NTTデータイントラマート）、成末義哲（東京大学）、森川博之（東京大学）：プロセスマイニング手法を活用した業務意思決定支援システムの設計について

・ 若手学生奨励賞

白井由樹（同志社大学大学院）：主観的評価からみたソフトウェア技術者の生産性比較～業務位置づけからみた日本のソフトウェア技術者の現状～

【各賞の特徴と注目された観点】

3賞の選定では、期限までに投稿された論文についてBP賞選定委員が論文内容の審査を行った。

まず、第1ステップとして、発表の聴講希望者が多いセッションの重複が少ないようにプログラムの調整が行われた。次に第2ステップで、委員それぞれが興味に応じて発表会場を回って、論文内容と発表内容の総合評価点を記し、さらに選んだ理由を付して委員全員が思いを共有した。その結果、選ばれたのが上記の各賞である。

ベストペーパー賞は、情報システム論文としての内容、アイデアの新規性、完成度、情報社会における有用性などを総合的に判断した。西野嘉之さんの発表は、「情報システム構築の思考プロセスに従って自動的にDB設計が行われ、生成される方法の普遍化が期待できること」、「情報の構造を簡略に表現することで、利用者による情報の利活用を実現したこと」などが評価された。

ベストペーパー特別賞は、もう少し広い視野で論文の内容を判断した。中山義人さん等の論文は、フィールドにおける評価検証など今後の課題は残されているものの、「意思決定プロセスの精度向上と大幅な効率化が認められる面白い試みであること」、「研究とビジネスを結びつけることが期待できること」、「人間の意思決定支援への実用化が期待できること」などが評価された。

若手学生奨励賞は、これからの情報システム学会を担う若手研究者の増加を期待して今回はじめて設けられた賞である。若手学生の該当者には4つの条件が付けられた。それは、研究発表会当日において、「①大学に在籍中の大学生または大学院生であること（ただし、社会人の学生は除く）、②30歳未満であること、③論文の第1著者で且つ発表者であること、④提出期限までに論文を投稿していること」の全てを満たしている者である。

臼井由樹さんの発表は、日本のIS業界の最大の課題に挑戦し一定の結論を出しており、質疑にも真摯に対応したことが高く評価された。具体的には、「主観的ではあるが、ソフトウェアの生産性を丁寧に分析し、結果として信頼に足る知見を提示していること」、「調査対象数が多く、現状に一石を投じるものであること」などが挙げられた。

【BP 賞選定委員会の設立と更なる発展に向けて】

BP 賞選定委員の委員委嘱状（10月1日から1年間）が届いたあと、（新たな制度であるということ）伊藤会長および事務局長と進め方について話し合う機会があった。その際、研究発表大会に若手学生奨励賞を設けようということになったのである。こうして、若手学生奨励賞の第1号が誕生した。

このことは今後の発表会における参加者のモチベーションにつながったといえる。また、次世代を支える若手へのバトンタッチや学会活性化にも弾みをつけることになったと考えられる。発表を聴きながら感じたことは、興味深い話題がたくさんあるということであった。

発表内容の手直しをして、是非とも論文誌に投稿していただきたい。